



生の一次情報を得ることができるウェブ検索の第三弾である。官公庁、地方自治体のウェブサイトが続いて、今回は電子政府と国会図書館のウェブサイトアクセスを紹介しよう。一般的には敬遠されがちなサイトのようなが、我が国最大のウェブサイトについて、予め、どんな資料、情報があるかを見ておくと、いざという時の、一味違う情報入手につながるはずである。

第八話 電子政府と国会図書館を利用する

官公庁の資料を調べる方法の最後として、電子政府の「イーガブ」と国会図書館の「リサーチナビ」による検索サービスの利用法を紹介しよう。

イーガブ (e-Gov) (<http://www.e-gov.go.jp/>) は、電子政府の総合窓口であり、日本政府の情報ポータルサイトとしての機能を備えている。2004年1月よりサービスが始まったものである。

このイーガブは、各府省ホームページの横断検索、法令情報検索、行政手続案内、パブリックコメント情報案内、組織制度の概要情報案内、行政文書ファイル管理簿等の情報提供サービス及び電子申請受付サービスを提供している。

このイーガブでは、フリーワードで一般検索できるほか、省庁別、都道府県別といった詳細検索もできる。トップページのサイトマップを調べれば、このサイトの全体像を知ることができる。

このイーガブで検索できる情報の種類 (<http://www.e-gov.go.jp/about/service.html>) は、「行政手続案内、パブリックコメント、府省ホームページ検索、行政文書ファイル管理簿、個人情報ファイル簿、組織・制度の概要」であり、検索して調べることが出来る。

各大臣の記者会見の様様 (動画も含む) から、各府省所管の法令・告示・通達、国会に提出している法案、所管する公益法人や団体、審議会や研究会の内容、白書や統計データ、予算と決算の内容、そして各種の申請の手続きや電子入札などなどについて、情報入手することが出来る。

次に、ポータルサイトとして重要なのが、国会図書館の「リサーチナビ」である。国会図書館というと、所蔵する書籍や雑誌の検索だけと思っている人が少なくないかもしれないが、国会図書館は議会図書館として、国会で審議された議事録、白書 (年次報告書)、官公庁が所管する各機関の資料の入手や手続きなどができる。

国会図書館について、ウィキペディアには、「国立国会図書館は、日本の立法府である国会に属する国の機関であり、国会の立法行為を補佐することを第一の目的とする議会図書館である。同時に、納本図書館として日本で唯一の国立図書館としての機能を兼ねており、行政・司法の各部門および日本国民に対するサービスも行っている」と書かれている。

国会図書館の「リサーチナビ」 (<http://rnavi.ndl.go.jp/lr-search/>) という検索サービスに

は、同サイトに「調べ方案内」(http://rnavi.ndl.go.jp/research_guide/) という案内コーナーがあり、何がどのように調べられるかを紹介しており、使いやすい。カテゴリ別、資料別という、より細かい調べ方が用意されている。

巨大なサイトなので、トップページの一番下にある「サイトマップ」をクリックし、「リサーチナビ」のサイトの全体像と、どのような資料が入手できるかを見ておくことをお勧めする。

国会の衆議院や参議院の各種委員会において、政府と与党・野党との間でどのような審議がなされたかは、両院の会議録で知ることができる。これは、国会会議録検索システム (kokkai.ndl.go.jp) で検索することができる。グーグルで範囲指定 (`site:kokkai.ndl.go.jp`) しても検索することができる。好みであるが、筆者は後者の検索を利用している。

ちなみに、情報流出事件について調べてみよう。尖閣諸島沖での海上保安庁の巡視艇と中国漁船との衝突でのビデオ流出事件についてグーグル検索してみよう。{海上保安庁 ビデオ流出 `site:kokkai.ndl.go.jp`} で検索すると 59 件、{中国漁船 ビデオ流出 `site:kokkai.ndl.go.jp`} で検索すると 9 件、{尖閣諸島 ビデオ流出 `site:kokkai.ndl.go.jp`} で検索すると 36 件が、それぞれ検索されている。

これに対して、警視庁公安部の内部資料流出事件を見てみると、{警視庁 公安部 内部資料流出 `site:kokkai.ndl.go.jp`} で 72 件が検索されている。また、{警視庁 公安部 内部資料 流出 国際テロ `site:kokkai.ndl.go.jp`} 30 件検索されている。

興味深いのは、1947 年の第一回開催の国会からの議事録を検索することができる。これを利用すると、戦後の歴史に残る有名な事件や出来事について、国会の場でどのような質疑応答がなされていたかについて、当時の生の記録を見ることが出来る。

たとえば、昭和 39 年の首都高速、新幹線、東京オリンピック、昭和 48 年のオイルショック、日航ハイジャック事件、金大中事件、平成 7 年の阪神大震災、地下鉄サリン事件、高速増殖炉もんじゅナトリウム漏洩事故などなど、国会の審議会でも質疑応答がなされている。当時の生々しい証言が一次資料として入手できるので、興味深く読める。

この他、政府関係のサイトではいろいろな検索サービスを提供している。どのようなサービスが提供されているかについて、事前に知っておくことは無駄ではない。この幾つかについて、紹介しておこう。

国立情報学研究所 (NII) では、GeNII (NII 学術コンテンツポータル) という検索サービスを提供している。そこには、CiNii (NII 論文情報ナビゲータ)、KAKEN (科学研究費補助金データベース)、NII-DBR (学術研究データベース・リポジトリ)、JAIRO (学術機関リポジトリポータル) というサブのデータベース・サービスがついている。

CiNii [サイニィ]では、学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなど、学術論文情報を検索するもので、公開されているコンテンツについては入手できる (無料と有料があり)。

KAKEN (科学研究費補助金データベース) では、文部科学省の科学研究補助金を得て研究された成果が報告されており、研究タイトルと概要を知ることができる。研究によっては、発表された研究論文にアクセスできる場合もある。

官公庁のウェブサイトの利用法について、3回にわたり紹介してきた。官公庁の資料が検索され難いのは、世界各国に共通するといわれている。しかし、官公庁のサイトは、最大の情報源であり、一次情報源も多い。暇なときに、ウェブサーフィンをしておき、どのような資料があるかについて見ておくと、いざという時に役に立つ。